

提案者

活用技術

静岡県

AI・IoT、自動運転

■ 背景・課題

目指す
将来像

- 3次元点群データを活用し、サイバー空間に仮想3次元県土「VIRTUAL SHIZUOKA」を構築し、仮想空間にあらゆる分野のデータを入力して災害や人の流れ、自動運転などの模擬実験を行うことで、合意形成の迅速化や生産性向上を目指す

解決すべき
課題

- 伊豆地域の公共交通は東海岸の鉄道、路線バスに依存しており、土砂崩れなどの災害による通行止めが地域の社会活動に影響を与える恐れがあり、ICTの導入や新技術の活用により早期に復旧できる体制を整えておくことが必要不可欠である
- 高齢者の運転免許証返納者数の増加や若年層の車離れの進行など、多様な移動サービスへのニーズが高まっている

■ 実装を目指す主な事業内容

○事業：自動運転技術を活用したオンデマンド交通の導入

○事業：5Gを活用した複数台の遠隔型自動運転技術の導入

活用技術

事業概要

AI・IoT
自動運転

- 下田地区において、伊豆観光型MaaS(※)と連携したオンデマンド交通に交通事業者がレベル3の自動運転車両を導入する
- 自動運転車両からの外部情報提供

活用技術

事業概要

AI・IoT
自動運転

- 熱海・下田地区で実証した自動運転技術の横展開
- 西伊豆地域において、遠隔型自動運転(レベル4)を導入する
- 運転手不足に悩む交通事業者が5Gを活用し、一人の運転手が営業所から複数台を遠隔監視する

伊豆観光型MaaSのイメージ



自動運転車両
(デマンドタクシー)
の予約と決済が
MaaSアプリで完了



後続車の不満の低減に向けた
電光掲示板による情報提供
※画像はイメージです